



成功と継続のための社長の仕事！！



「社長の仕事」は、会社を一時的な成功へ導くことではない。会社を「永続させる」ために必要な「すべて」のを行うことだ。それは簡単ではない。『社長の仕事』の質が会社の成否を決めている。何千人という社長と接してきて、何千社という経営の盛衰をみてきて、思い知らされたことである。この事実は、多くの成功者が語ってきたことでもあるし、職位に関係なく、会社に属する多くの者が理解していることでもある。また、日々、社会からの厳しいフィードバックを容赦なく受けている実践の経営者ならば、尚更強く実感していることでもある。しかし、実はそこに大きな落とし穴がある。何故かと言うと「社長の仕事が会社の成否を決めている」のは、長期的には真実だが、短期的には真実ではないからである。経営は不思議なもので、短期的に見ると、社長の実力に関係なく成功していることが多い。経営の成功を支える要因が、たまたま揃っていたり、時流やブームに乗ったり、一部の突出した能力が強くて全体の成功を支えていたりすると、成功する。いや、成功してしまう。つまり、「たいていの成功は、偶然である」ということだ。しかし、それにもかかわらず、多くの社長は「偶然の成功」で満足してしまう。成功の一部が偶然によってもたらされているとは夢にも思わず、すべてを自らの力で成し遂げた成果なのだと信じてしまう。だから、社長としての実力を高めることをやめてしまう。そういった努力から逃げるようになり、人の話を聞かなくなり、独善的になる。そして、失敗してしまう。環境は常に変わる。それによって自社を成功に導いていた要素も常に変化している。当然、偶然によってもたらされていた要素も変化する。その時、実力の無い経営者は、それを再構築することができない。いや、そもそも「何が変化したのか？」「何が必要なのか？」が分かっていない。偶然の成功に酔い、社長としての実力を高める努力をせず、経営に必要な「要素と構造」が分かっていないのだから当然のことである。分かるのは、うまくいっていないという事実だけだ。多くの社長が「社長であり続けることができない」という、厳しい現実の大きな原因の一つがこの点にある。「社長の仕事」は、会社を一時的な成功へ導くことではない。会社を「永続させる」ために必要な「すべて」のをすることだ。それは簡単ではない。「成功するのは簡単だが、成功し続けるのは難しい」のだ。「知っているか知らないか」ではなく、「出来ているか出来ていないか」を、自らに問うのが「成功と継続」をもたらす社長の基準である。